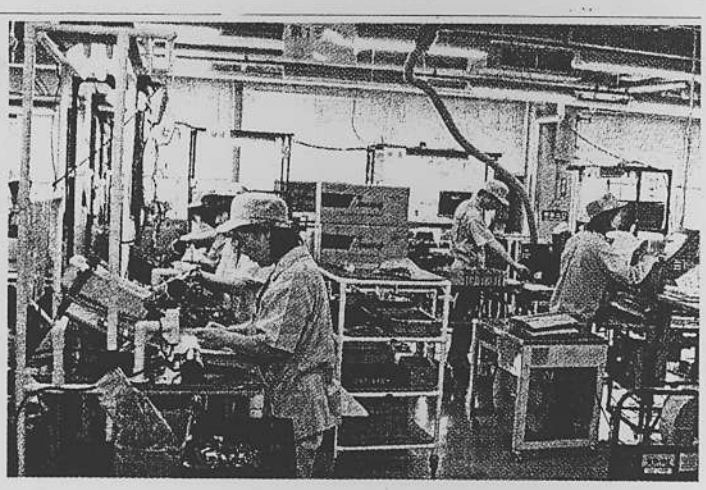

「カイゼン」活動で生産効率が大幅にアップした工場内＝白河市の白河日東工器

企業体質改善プログラムで全国初

TPMチャレンジ賞受賞

白河日東工器の活動評価

24日表彰式

電動工具、建築機器製造の白河日東工器（白河市双石、工場長・新井洋介副社長）は二十一日までに、日本プラントメンテナンス協会のTPM（トータル・プロダクティブ・メンテナンス&マネジメント）チャレンジ賞を受賞した。生産現場の改革手法であるTPMの中小企業体質改善プログラム（C―TPM）分野では、国内初の受賞。二十四日に仙台市で開かれるTPM東北大会で同協会から表彰を受ける。

同社は東証一部上場の日東工器グループ企業で社員百八人。二〇〇三年九月から同プログラムを開始し、四分科会、九サークルで構成するプロジェクトチームによる「カイゼン」活動に取り組んだ。

取り組みでは①コンパクトな活動を着実に積み上げる②目標のコストダウンを達成する③チャレンジ賞に挑戦する―をスローガンに掲げた。カイゼン活動では、目標を持った工程の効率化（時間短縮）・見直し、情報交換、成果発表、グラフ記入、整理・整とん、清掃・清潔を進め、開始から一年半でチャレンジ賞に到達した。

活動を通して設備故障は一年半前の十分の一に減少、生産効率の向上につながり、納入不良低下、在庫低減、仕事に強い人材の養成と人に優しい職場環境にもつながった。

同社によると、国内の中小企業百数社が同プログラムに取り組んでいる。チャレンジ賞への到達は、大企業向けのTPMへのステップアップとなる快挙。新井副社長・工場長は「改善によって社員のやる気を高め、対外的にも活動の成果が認められるようになった」と話している。

TPM東北地区大会では、表彰と併せて同社の生産部製造課係長星忠光さんが「マシニングセンタでのカムの段取り時間短縮と一発良品化」をテーマに発表する。

福島民友新聞社 6.22

効率化、技術向上 TPMチャレンジ賞

白河日東工器が受賞

TPMチャレンジ賞を披露する新井副社長（左）

産業用電動ドライバーとドアクローザを製造している白河市の白河日東工器（新井洋介副社長兼工場長）は、生産設備の効率化と社員の技能向上が高く評価され二十四日、社団法人日本プラントメンテナンス協会のTPMチャレンジ賞を受賞した。中小企業では初めてで同日、仙台市で開かれたTPM東北地区大会で表彰された。

TPMはトータル・プロダクティブ・メンテナンスの略で、設備管理の改善と従業員の資質向上によって生産性を高める活動。同社は平成十五年九月から目標を掲げて作業工程の効率化、職場の環境改善、人材育成に取り組み成果を挙げた。

同社は東証一部上場の日東工器の完全子会社で社員百八人。電動工具、建築機器の両部門でISO9001（品質管理システム）の認証を取得している。

東北地区大会では同社製造課の星忠光係長が事例発表も行った。新井副社長は「今回の受賞は企業のイメージアップと社員の励みにもなった」と話している。

福島民報社 6.28